

# 全学教育「経済学」

## 1. ガイダンスとイントロダクション

---

柳瀬 明彦（経済学部）

2022年4月11日

開講にあたって

---

- ミクロ経済学の基礎を講義する。
- 数式や図を使う（それほど難しくはない）ので、**数学的思考**は必要。
  - 複雑な経済問題を抽象化することにより、**論理的に明快に分析**するため。
  - 重要なのは、「その用語が何を意味するのか？」「なぜそのような計算をするのか？」「得られた結果をどのように解釈するのか？」といった点  
→ 専門用語や数式に振り回されないように。

# 講義の進め方

- Zoom によるオンライン同時配信型講義
  - 後で YouTube にもアップロードする予定（復習に役立ててください）。
  - Zoom ミーティングルーム情報：
    - <https://zoom.us/j/96297723948?pwd=T0p0czRrSUNnTG1HZFVYaHJ3cTB1dz09>
    - ミーティング ID: 962 9772 3948
    - パスコード: 098371
  - マイクはオフ（質問時以外）
- NUCT を活用します。
  - 講義資料のアップロード
  - 小テストの実施
  - お知らせが来た場合は、NUCT にアクセスしてください。
  - 講義時間外の質問があれば、ご利用ください。

## 受講心得

- 出席はとりませんが、毎回欠かさず出席し受講すること。
  - 授業のスピード&分量は、高校の比ではありません。
- **復習**に時間をかける。
  - ノートの見直し、参考図書を読む、問題演習など
  - 講義時間の倍以上を目安に。
- 分からないことがあれば、積極的に質問を。
  - 講義時間外は、NUCTの「メッセージ」を活用してください。
- 参考図書
  - 清野一治『シリーズ新エコノミクス ミクロ経済学入門』日本評論社
  - 梶谷真也・鈴木史馬『しっかり基礎からミクロ経済学 LQアプローチ』日本評論社
  - 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社

- 小テストと期末試験の成績に基づいて判定
  - レポート課題を課すかどうかは検討中
- 単に出席している「だけ」で単位を取れる保証は、ありません。

# ミクロ経済学のイントロダクション

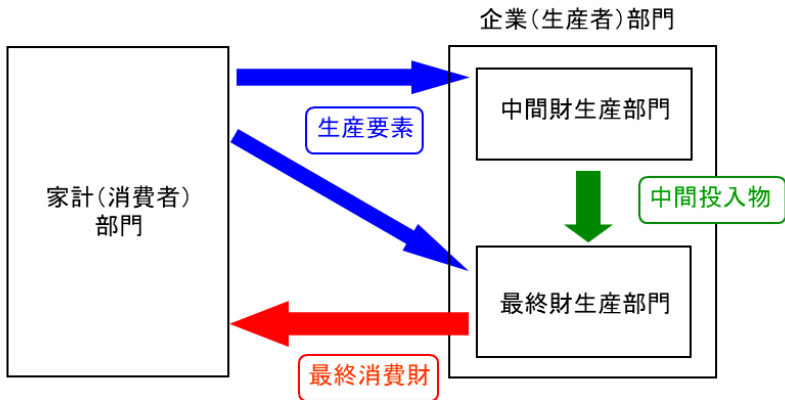
---

- 経済学 (economics) : 経済のあり方を研究する学問
- 経済 (economy) : 社会生活を営むための、財 (モノやサービス) の生産・売買・消費などの活動
- 現実の経済は非常に複雑  
→ 経済学では、現実の経済を単純化したモデルを用いて分析



# 経済モデルの基本

- 経済主体 (economic agents)：経済活動を行う個人や組織
  - 民間 [私的] 部門 (private sector)
    - 家計 [消費者] 部門 (household [consumer])
    - 企業 [生産者] 部門 (firm [producer])
  - 政府 [公共] 部門 (government [public] sector)
- 財の分類と生産活動
  - 生産要素 (factor of production)：労働 (labor)，資本 (capital)，土地 (land)
  - 中間投入物 (intermediate input)：原材料 (raw material)，機械 (machinery)，工場設備 (plant) など
  - 最終消費財 (final consumption good)

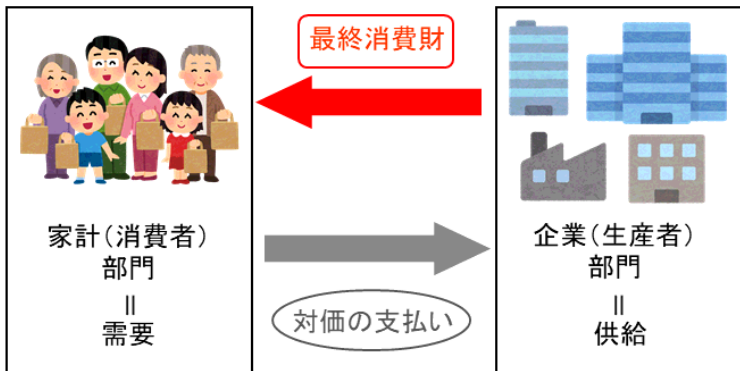


- 集権的計画経済 (centralized command economy)
  - 政府がすべての財の生産&消費を決定し、その決定どおりに消費者や生産者に経済活動を行わせる
  - 社会主義 (socialism)・共産主義 (communism)：私有財産を認めない
- 分権的市場経済 (decentralized market economy)
  - 個別の経済主体が財の生産や消費を、その市場価格に基づいて自由に決定し、取引を行う
  - 資本主義 (capitalism)：私有財産を認める
- 混合経済 (mixed economy)：現実の経済体制
  - 分権的市場経済 + 政府による市場介入

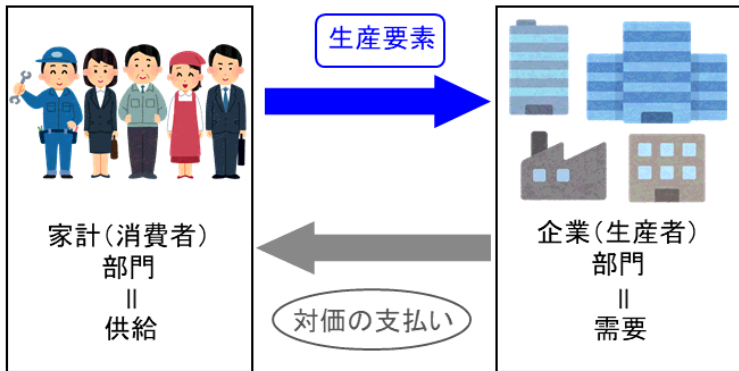
## 市場経済における経済的取引

- ある財について、買い手（需要する経済主体）が売り手（供給する経済主体）に対価を支払い、その財を手に入れる
  - 財の対価 = 市場価格 (market price)
- 市場 = 市場取引がなされる場
- 誰が需要し、誰が供給するのか？
  - 生産要素：家計部門が供給し、企業部門が需要
  - 中間投入物：企業部門間で取引
  - 最終消費財：企業部門が供給し、家計部門が需要

# 市場取引：最終財の場合



# 市場取引：生産要素（労働）の場合



- ミクロ経済学 (microeconomics)
  - 市場経済における、個別の経済主体の消費・生産・売買に関する意思決定と、その結果としての社会の状態を分析
  - 価格理論 (price theory) としてのミクロ経済学
  - cf. ゲーム理論 (game theory) : 非市場的な取引も含む
- マクロ経済学 (macroeconomics)
  - 経済全体 (通常、一つの国全体) に関する諸変数 (インフレ率, 失業率, GDP など) の間の関係や、その動きを分析
- ミクロ経済学とマクロ経済学は、同じ経済を異なる視点で分析 → 相互に補完

- 消費者の意思決定：効用最大化 (utility maximization)
  - 予算制約の下で，消費財の購入・消費から得られる効用を最大化
    - 消費財の需要 & 生産要素の供給を決定
- 生産者の意思決定：利潤最大化 (profit maximization)
  - 生産技術の制約の下で，財の生産・販売から得られる利潤を最大化
    - 生産要素の需要 & 生産物の供給を決定



## ミクロ経済学の基礎 2：市場の均衡

- 個別経済主体の需要・供給を市場全体で集計  
→ 市場需要 (market demand) & 市場供給 (market supply)
- 市場均衡 (market equilibrium)：「市場需要 = 市場供給」の状態において、財の市場均衡価格が決定
- 「市場均衡が効率的な資源配分 (efficient resource allocation) を達成するか」は重要な問題
  - 社会にとって必要な財が必要な分だけ過不足なく生産され、経済全体の利益が最大化される
- 市場均衡の効率性：市場構造 (market structure) に依存
  - 完全競争 (perfect competition) の下で市場取引 → 効率性
  - 不完全競争 (imperfect competition)：独占や寡占 → 市場均衡が非効率的になる可能性

## 部分均衡分析と一般均衡分析

- 部分均衡分析 (partial equilibrium analysis)
  - ある一つの財の市場に着目し、他のすべての市場における状況には変化がないと想定
- 一般均衡分析 (general equilibrium analysis)
  - すべての財の市場について、その相互依存関係を考慮
- 両者はそれぞれ長所と短所がある
  - 一般均衡分析の方が厳密だが、分析が複雑になってしまう  
→ 部分均衡分析の利点
  - この講義では、主に部分均衡分析の枠組みで、市場経済システムの仕組みと意義を理解

- 市場経済で発生する様々な問題が存在
  - 資源配分の非効率性
  - 所得や資産の不平等
  - 景気の悪化や停滞
- 政府部門の役割：以上の諸問題を解決
  - 直接的な経済活動（公共サービスの提供）
  - 民間部門の経済活動への直接・間接的な介入